

発話上におけるあいづちの出現位置とその分布

—— 自然談話録音資料にもとづいて ——

中島 悦子

1. はじめに

会話というものがお互いの意志疎通を図ったり、良き人間関係を築いたりする上で重要なことはいうまでもない。会話のコツは、相手が何か言ったら、まず「そうね」「ええ」と短い表現で受け止める。これは話の内容に同意するのではなく、「聞いていますよ」という信号である。そして次の段階で相手の話の中身を聞いていく。この「そうね」「ええ」のような、相手の話を聞いていますよという信号があいづちである。あいづちを打つことによって相手が話しやすいように話を促していく。あいづちはこのように話し手と聞き手とのコミュニケーションを円滑に進行させるための重要な働きをしている。

従って、会話の流れを円滑に促進させる日本語のあいづちは、外国人にとっては重要な学習項目のひとつと考えられる。にもかかわらず、日本語のあいづちは外国人には理解しがたいことのように、適切に打てない学習者が多い。文中のどの位置にあいづちが挿入されるのかということを、基本的なルールとして学ばなければ、その習得は困難であろうかと思われる。具体的にあいづちを教えるためには、会話教材にあいづちの箇所を表示して、どの位置にあいづちが入るのかを理解させ、それから実際にあいづちを打つ練習に入る。このような過程が具体的に表示されている教材が望ましい。そのためには実際に日本人が打つあいづちの自然談話データの分析が必要となる。そこで本稿では、自然な談話の録音資料を調査・分析し、その分析結果をもとに、あいづちが発話上のどこに出現するのかその位置・分布を論ずる。併せてその成果があいづち表示のある日本語教材作成のための資料として活用されることを望む。また本稿は、中島2000（前稿と呼ぶ）において調査分析したあらたまり度や待遇度から見たあいづちの出現実態に続くものであるから、調査資料も同じく自然談話録音資料『職場における女性の話しことば』1994を使用した。

これまででもあいづちの機能、言語形式、頻度等の研究については細かい調査報告がなされてきている。本稿で扱うあいづちの出現する位置についても、水谷1984、1988b、メイナード1993、堀口1997等に報告がある。例えばメイナード1993は、「あいづちの多くは話し手が発話中短い間（ポーズ）を置くPPU末付近、又話の流れの拍子にあきが見られた時、そのタイミングに合わせて送られる」として、あいづち

の送られる談話上のコンテキストは「文末のポーズ付近、終助詞、間投助詞付近、付加疑問の付近、話し手の頭の動き付近」であるという。

本稿は、話し手の発話上のどの位置に聞き手のあいづちが挿入されているのか、即ち発話上に出現するあいづちの位置・分布をさらに細かく調査・分析する。従って、前稿で分類した例1のような叙述文に対するあいづちと例3のような応答に対するあいづちは分析の対象とせず、例2のような発話途中挿入のあいづちのみを扱う。またあいづちの言語形式は、「はい」「はあ」「ええ」「うん」「そう」5形の肯定応答詞を対象とする。なお、用例末の[]内は発話者番号・年齢・性(m男、f女)・場面(会議、打合せ、雑談等)・親疎の順で表示してある。

① えー、[地名]の、えー講座のほうの、内容つめ、の、ミーティングに入ります。

[15A・30・f→不明・f・会・*]

はい。

[15B・50・f→15A・30・f・会・普]

コピーはなにをもってませんので。〈笑い〉

[15A・30・f→不明・f・会・*]

はい。

[15B・50・f→15A・30・f・会・普]

② でもきのう2人編集経験があるって(うん inf(女)) ゆってるから(うん inf(女))、そんな悪い人(うん inf(女))じゃないし。

[15E・30・f→15A・30・f・打・親]

③ で、もしあれだったら、あちらの[名前]さんに★手伝ってもらうし。

[10A・40・f→10E・20・f・打・親]

→ああ。←

[10E・20・f→10A・40・f・打・親]

はい。

[10E・20・f→10A・40・f・打・親]

うん。

[10A・40・f→10E・20・f・打・親]

2. 発話上のあいづちの出現位置

あいづちは聞いているという信号であり、聞き手が話し手の発話の途中に挿入することによって、結果的に話し手の発話を促す働きをするものである。しかし、聞き手が発話上のどこでも、いつでも任意にあいづちを挿入できるというわけではない。話し手の発話を促し、会話がスムーズに流れていくためには適切な箇所に挿入されなければならない。

そこで、発話上に挿入されるあいづちの適切な位置を自然談話を資料として調査し、まとめたのが表1-1である。

談話資料では発話途中に出現するあいづちの総頻度数は737箇所ある。まずあいづちは話し手が発話途中で間(ポーズ)を置く時に合わせて打たれることが多いと

■表 1-1 発話上のあいづちの出現位置

発話上の位置	はい		はあ		ええ		うん		そう		計	
	頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%	頻度	%
名詞句の後	24	3.3	2	0.3	28	3.8	117	15.9	11	1.5	182	24.7
述語動詞の後	5	0.7	1	0.1	4	0.5	27	3.7	2	0.3	39	5.3
終助詞・間投助詞の後	15	2.0	0	0	15	2.0	113	15.3	6	0.8	149	20.2
接続助詞の後	34	4.6	3	0.4	36	4.9	164	22.2	12	1.6	249	33.8
引用助詞の後	2	0.3	0	0	7	0.9	18	2.4	1	0.1	28	3.8
接続詞の後	1	0.1	0	0	1	0.1	5	0.7	0	0	7	0.9
副詞句の後	3	0.4	1	0.1	0	0	18	2.4	0	0	22	3.0
指示詞の後	5	0.7	0	0	5	0.7	4	0.5	0	0	14	1.9
その他	4	0.5	1	0.1	3	0.4	21	2.8	1	0.1	30	4.1
不明	1	0.1	0	0	0	0	16	2.2	0	0	17	2.3
計	94	12.7	8	1.0	99	13.4	503	68.2	33	4.4	737	100.0

いう（メイナード1993参照）。発話の間（ポーズ）の置きやすい位置は、実際の談話資料では名詞句の後、述語動詞の後、あるいは終助詞・間投助詞の後や接続助詞の後が多い。話し手は発話中の句や節の後に短い間（ポーズ）を置きやすく、その間（ポーズ）に合わせて聞き手があいづちを打っていることがわかる。

発話上で最も多くあいづちが出現する位置は接続助詞と終助詞・間投助詞の直後、および名詞句の直後である。接続助詞の直後に出現するあいづちは249箇所、あいづち総頻度数737に対する比率（あいづち率と呼ぶ）は33.8%と第1位を占める。終助詞・間投助詞の直後に出現するあいづちは149箇所、あいづち率は20.2%と第3位である。名詞句の後に出現するあいづちも182箇所と多く、あいづち率は24.7%と第2位を占める。接続助詞、終助詞・間投助詞、名詞句の後のあいづちで全体の79%を占めていることがわかる。接続助詞、終助詞・間投助詞、あるいは名詞に後接して名詞句を形成する格助詞は節や句の切れ目を明確にする役割を持つものであるから、その直後に間（ポーズ）が置かれやすくなると予想される。そしてその位置に聞き手のあいづちが入るわけである。つまり聞き手のあいづちが出現する位置は、換言すれば話し手が聞き手にあいづちを要求する位置であるともいえる。聞き手は話し手からあいづちを要求されている箇所であいづちを打っていることになる。話し手が聞き手にあいづちを要求し、聞き手がそれに応えるそのてがかりが接続助詞、終助詞・間投助詞、名詞句の直後であるといえるのである。あいづちは聞いているという合図であるとともに話の進行を促進する働きをするわけであるから、あいづちの出現する位置に分布する接続助詞、終助詞・間投助詞あるいは名詞

に接続して名詞句を形成する格助詞等、日本語の助詞は会話の進行を管理する上で重要な役割を担っているといえる。話し手と聞き手とのコミュニケーションにおいて、少なくとも話し手の発話内で助詞を使用することによって、あいづちが打たれやすい環境が作り出されているのである。

3. あいづちの分布

3.1 あいづちの分布その1 ー終助詞・間投助詞の後ー

終助詞・間投助詞の後に分布するあいづちは149箇所あるが、その中で、「ね」の後が79箇所、53%（149に対する比率、分布率と呼ぶ）、「さ」の後が21箇所、分布率14%、「よ」の後が14箇所、分布率9.4%とこの三者で上位を占めている（表1-2参照）。「ね」「さ」「よ」三者の後のあいづちの分布率（149に対する比率）は全体の76.5%となり、非常に高い。それに比べ、その他の「か」「よね」「の」「かな」「な」等の後のあいづちの分布率は23.5%と低率である。つまり「ね」「さ」「よ」は聞き

■表1-2 あいづちの分布ー終助詞・間投助詞・引用助詞の後ー

	はい	はあ	ええ	うん	そう	計
発話上の位置	頻度	頻度	頻度	頻度	頻度	頻度
さ（あ）	0	0	3（インフォ）	15（フォ1 インフォ14）	3（インフォ）	21（フォ1 インフォ20）
ね（え）	13（フォ）	0	11（フォ）	54（フォ18 インフォ36）	1（インフォ）	79（フォ18 インフォ61）
よ	0	0	0	14（フォ5 インフォ9）	0	14（フォ5 インフォ9）
の	1（フォ）	0	0	3（フォ1 インフォ2）	2（インフォ）	6（フォ2 インフォ4）
のね	0	0	0	1（インフォ）	0	1（インフォ）
のよ	0	0	0	2（フォ1 インフォ1）	0	2（フォ1 インフォ1）
よね	0	0	0	9（フォ2 インフォ7）	0	9（フォ2 インフォ7）
かしら	0	0	0	1（インフォ）	0	1（インフォ）
かな（あ）	1（フォ）	0	0	4（インフォ）	0	5（フォ1 インフォ4）
か	0	0	1（フォ）	8（フォ5 インフォ3）	0	9（フォ6 インフォ3）
な	0	0	0	2（インフォ）	0	2（インフォ）
と（って）	2（フォ）	0	7（フォ6 インフォ1）	18（フォ10 インフォ8）	1（インフォ）	28（フォ18 インフォ10）

（注：フォーマルをフォ、インフォーマルをインフォと略す）

手に対してあいづちを求める働きかけが非常に強い助詞であることがわかる。

終助詞・間投助詞の「ね」「さ」「よ」等については次のような指摘がある。

水谷1985は、共存の意識を示すものとして、終助詞「ね」「さ」「よ」「わ」を取り上げ、「ね」は話者が聞き手に共感したとき、また、聞き手の同意を期待したとき、あるいは確認しようとしたときに用い、「よ」は聞き手の同意に関係なく話者の判断を強調するときに用いる。とくに「ね」は共感の表現として頻繁に用いられる」と述べている。

メイナード1993は、「ね」「よ」「さ」「かな」「か」「わ」「ぜ」のような終助詞、間投助詞は対人関係に関与する助詞として、日本語の感情表現につながるという。

佐治1991は、助詞を聞き手に対する直接的な態度を表す第1類と、叙述の完了に伴う話し手の態度に関係する第2類とに分類し、前者には「ね」「よ」「さ」を、後者には「わ」「ぞ・ぜ」「か」を挙げており、「ね」は「話しかけ問いかける気持」、「よ」は「呼びかけ押しつける気持」、「さ」は「突きはなし放りだす気持」を表すという。

以上の記述から、終助詞「ね」「さ」「よ」に共通する特徴は、聞き手に対する直接的な関与を表すもの、ということになる。

あいづちが「ね」「さ」「よ」の直後に分布する率が高いということも、「ね」「さ」「よ」等に共通するこの特徴によるものと考えられる。話し手は自己の発話の流れの中で「ね」「さ」「よ」を使用することによって聞き手に直接働きかけ、聞き手の関与—あいづち—を期待する。そこで聞き手は話し手の働きかけに応じてあいづちを打つことになる。「ね」「さ」「よ」の直後にあいづちが分布する箇所は、発話の流れの中で話し手と聞き手とが同じ感情を共有した、つまり話し手の求めに応じて聞き手が聞いていますよという信号を送る、話し手と聞き手との共感の場なのである。以下に「ね」「さ」「よ」等の後に分布するあいづちの具体的な例を見ていく。

④それで、メンバーとしてですね、(はいはい inf(女)) まだ、全部、あの一、
(はい inf(女)) 話は、(はい inf(女)) してないんです、いちよ、お医者
さんとしてですね★、あの一。 [04M・40・f→04A・50・f・打・?]

→はあはあ。← [名字] 先生ね。 [04A・50・f・→04M・40・f・打・?]

⑤でも、あの一、やっぱり全部知ってたほうがね、(ええ 他者(女)) あの一、
いいと思いますし、あの一、やっぱり、あの一、なんだっけ、長寿研だっけ。

[04A・50・f→04M・40・f・打・?]

⑥きのうね一、(うん inf(女)) 秋葉原とかね一、(うん inf(女)) 浅草に行っ

てたらねー、(うん inf(女)) 行く途中に車乗ってた時から、かーっと痛くな
っちゃった、足が。 [不明→08A・50・f・相談・*]

㉗ こないださー、(ええ inf(女)) ある日ねー、あの雑草の中にさー、(うん
inf(女)) なんか一輪だけきれいなピンクの花が咲いてるからさー、(ええ inf
(女)) 誰がこんなとこに花捨てていったのかなーと思って。

[09F・50・m→09A・30・f・雑・親親]

㉘ ## さあ、西村京太郎にさあ、(うーん 不明(女)) はまったことがあってさ
あ。

[06N・40・m→多数・雑・*]

うーん。

[06M・20・f→多数・雑・*]

㉙ でさー (うん inf(女)) なんか、書いたんだけどさー、(うん inf(女)) そ
れって変だよなーと思ってー、(へー inf(女)) でー電話したのよ (え、え
inf(女))、さっき。

[16E・30・f→16B・30・f・雑・*]

㊱ で、これで、このデザイナーを使おうとか、(うーん、うん inf(女)) じゃ、
これに関してはこっちのほうがいいかなとか、(うんうん inf(女)) ゆうのは、
あの、え、すごい簡単、(うーん、うん inf(女)) ようするに簡単ーなほうを
選びたいんですよ、(うん inf(女)) 今回は。 [06H・?・m→多数・打・*]

㊲ [名字] せんせー、そこに飾ってある6年生の人の作品ねー、(うん inf(女))
うち、娘が4年なんだけどー、来たんですよー、(うんうんうん inf(女)) ね
えねえねえ、[名前] ちゃんこれなん年生の作品だーつつうったら、2年生とか
ゆっちゃって。〈笑い・複〉

[08K・40・f→08A・50・f・雑・普]

㊳ 入れないんですよ、(うーん inf(女)) なかなか。

[08I・30・m→08A・50・f・雑・普]

あいづちは、「ね」の後が79箇所、「さ」の後が21箇所、「よ」の後が14箇所と、
「ね」の後に最も多い。「ね」は「さ」や「よ」よりも聞き手にあいづちを要求する
働きが強いことがわかる。

「ね」は、例6のように「きのうねー」、「秋葉原とかねー」、「行ったらねー、」
と、語・句や節の後に付いてその区切りを明確にする。また例4のように「メンバ
ーとしてですね、」とフォーマルな場面では丁寧体の後に付くこともある。

「さ」も、例7のように「こないださー」、「雑草の中にさー」、「咲いてるからさー、」
と語・句や節の後に付いてその切れ目を明確にする。このような「ね」や「さ」は
終助詞というより間投助詞として機能している。つまり語・句や節について間投助
詞として機能する「ね」や「さ」は、こうして発話の中でその切れ目、切れ目で聞

き手に直接的に働きかけ、聞き手の反応を促す。そしてその直後にポーズが置かれる場合もあるが、そこにあいづちが送られるのである。

「ね」と「さ」の後のあいづちの言語形式を比べると、「さ」の後には「はい」や「はあ」等の丁寧度の高い形式は現れていない。「ええ」「そう」が僅かにインフォーマル場面に出現しているだけである。「さ」の後のあいづちは大多数が丁寧度の低い「うん」でインフォーマル場面に現れている。これに比べ、「ね」の後のあいづちの形式も「うん」が最も多いが、フォーマル場面にもインフォーマル場面にも出現している。また、「ね」の後には丁寧度の高い「はい」や「ええ」もフォーマル場面で出現している。つまり、「さ」より「ね」のほうが丁寧度が高く、「はい」や「ええ」等の丁寧なあいづちを要求する助詞であることがわかる。「さ」と「ね」のこのような丁寧度の差もその出現頻度を左右する要因となっている。

「よ」は、例10「選びたいんですよ、」、例11「来たんですよー、」、例12「入れないんですよ、」のように文末に付いており、その直後にあいづちが送られている。談話資料では発話の途中にある語・句や節の後に付く「よ」の例はなかった。つまり、「よ」は主として文末の箇所では聞き手にあいづちを促す働きをしており、「ね」や「さ」のように発話の途中の語・句や節の切れ目では聞き手にあいづちを促す働きをしていない。「よ」の後のほうが「ね」や「さ」の後よりあいづちの頻度が低いのもこうした理由によると考えられる。資料では「よ」の箇所に分布するあいづちの形式は「うん」だけであった。

なお、「のね」「よね」「か」「な（あ）」等の後に分布するあいづちについては、以下に例だけを示しておく。また、17は引用助詞「って」の後のあいづちの例である。

図→それでね←、それでね、(うん inf(女)) それで、彼女になりそうなときに(うん inf(女))、なおなっちゃったのね、(うん inf(女)) へへへのときにだよ、(うん inf(女)) ###だけど、(うん inf(女)) 違うなっと思えるようになったのね。
[01C・30・m→01A・20・f・雑・親親]

うん。
[01A・20・f→01C・30・m・雑・親親]

図なんか自分のね、(うん inf(女)) 思い込みがあるんだよね、(うん、うーん inf(女)) どうしても。
[08I・30・m→08A・50・f・雑・普]

図それがいちばん大きい点だと思うので、養成講座を、出してから就職するまでは、(うんうん inf(女)) のことを、どっかで触れたほうがいいんじゃないか (うん inf(女)) と思います。
[17G・30・m→多数・会・*]

その後（ご）ですね。

[17A・30・f→17G・30・m・会・*]

えー、中身ばっかり触れるんじゃないくて、養成講座を出たあとどうなるのか（うーん inf(女)）ってゆうの、★触れとかないと。

[17G・30・m→多数・会・*]

㉔でも、まあ、1年生の、子たちに比べっと、まあ、[名字] くんたちも、（うーん inf(女)）落ち着いてきたなあ（うーん inf(女)）とか思っちゃうけど。
〈笑い〉

[08I・30・m→08A・50・f・雑・普]

㉕でもきのう2人編集経験があるって（うん inf(女)）ゆってるから（うん inf(女)）、そんな悪い人（うん inf(女)）じゃないし。

[15E・30・f→15A・30・f・打・親]

■表1-3 あいづちの分布－接続助詞の後－

	はい	はあ	ええ	うん	そう	計
発話上の位置	頻度	頻度	頻度	頻度	頻度	頻度
とか	2 (7オ)	1 (7オ)	3 (7オ2 イン7オ1)	13 (7オ6 イン7オ7)	1 (イン7オ)	20 (7オ11 イン7オ9)
から	5 (7オ)	0	3 (7オ)	27 (7オ15 イン7オ12)	2 (イン7オ)	37 (7オ23 イン7オ14)
ので(んで)	5 (7オ)	2 (7オ)	4 (7オ)	5 (7オ1 イン7オ4)	1 (イン7オ)	17 (7オ12 イン7オ5)
け(れ)ど(も)	3 (7オ2 イン7オ1)	0	5 (7オ4 イン7オ1)	37 (7オ11 イン7オ26)	1 (イン7オ)	46 (7オ17 イン7オ29)
が	4 (7オ)	0	2 (7オ)	2 (7オ)	0	8 (7オ)
て	12 (7オ)	0	12 (7オ8 イン7オ4)	43 (7オ23 イン7オ20)	4 (7オ1 イン7オ3)	71 (7オ44 イン7オ27)
し	0	0	0	5 (7オ2 イン7オ3)	1 (イン7オ)	6 (7オ2 イン7オ4)
と	0	0	3 (7オ)	9 (7オ2 イン7オ7)	2 (イン7オ)	14 (7オ5 イン7オ9)
ば	1 (7オ)	0	3 (7オ)	10 (7オ6 イン7オ4)	0	14 (7オ10 イン7オ4)
たら (ば)	1 (7オ)	0	0	8 (7オ3 イン7オ5)	0	9 (7オ4 イン7オ5)
なら (ば)	1 (7オ)	0	0	0	0	1 (7オ)
ても	0	0	1 (7オ)	4 (7オ2 イン7オ2)	0	5 (7オ3 イン7オ2)
のに	0	0	0	1 (イン7オ)	0	1 (イン7オ)

3.2 あいづちの分布その2 ー接続助詞の後ー

接続助詞の後に分布するあいづちは249箇所、あいづち率33.8%と、接続助詞の後が一番高い。表1-3によると、接続助詞の中では「て」「け（れ）ど（も）」「から」「ので」「とか」「と」「ば」の順で、その直後に分布するあいづちの頻度が高くなっている。その他「たら（ば）」「が」「し」「ても」「なら（ば）」「のに」等の後にもあいづちが分布する。以下に用例を挙げて説明する。

㊸逃げたってゆうか、遊びに行っちゃって、畑ん中をかけずり回ってて、（はあ ん inf(女)）そしたら、近所の、人が見つけてくれてね、（ええええ inf(女)）その人がさん、その人が散歩して（ええ inf(女)）いっしょについて（ええ inf(女)）帰ってきたんだって。

[10C・30・m→10A・40・f・雑・親親]

㊹やっぱりさっき100選んだんだけど、なんかその複雑なね↑（ええ 他者(男)）、その一選択とか、位置指定で100番を選んだとか（ええ 他者(男)）、そういうことにすると、これが起こってくるってということもあるんですねー↑

[18A・40・f→18B・30・m・相談・普]

んー。

[18B・30・m→18A・40・f・相談・普]

じゃー、えっと今このフロッピーディスクドライブでやってみましたけれども（うん inf(女)）、ここではなくてハードディスクに入れてえ（うん inf(女)）、やってみましょう。

[18B・30・m→18A・40・f・相談・普]

㊺それでー、えーとー9060番を選び出したのでえ（はい 他者(男)）、大体、ひとつの、えー、学校で100名ぐらいつつですからあ（ええ 他者(男)）、7000番台で100（はい 他者(男)）8000番台で100ありますのでえ（ええ 他者(男)）、えー9060っていうとまあ200とか250、ぐらいまで飛んで（ええ 他者(男)）、そっからこう流して行ってもいいかなと（ええ 他者(男)）思って、こないだ、きのうは200というのを（はい 他者(男)）選んだんですけどね↑

[18A・40・f→18B・30・m・相談・普]

㊻ま、ほんらいあの、お時間があれば、（ええ inf(女)）あの一、えー、文字を組んで、（ええ inf(女)）初校を出して、そいで、いちおう赤字でだして、OK（オーケー）ですよって戻して、ま、とうぜん多少なりでも直しがありますね。

[03E・?・m→03A・30・f・会・疎疎]

㊼あ、でも違う（ん）ですよ、半分からこっちからうつと、（うん inf(女)）3点。

[14I・20・m→14A・20・f・雑・普]

㊽もし、そのよう、すいません、じゃわたしのような見方をするんであったらば、

(うん inf(女)) まあ、とりあえずは、タイトルを変えれば。

[04L・30・f→04A・50・f・指導・親親]

うん。

[04A・50・f→04L・30・f・指導・親親]

例18「かけずり回ってて、」(はあん)、「見つけてくれてね、」(ええええ)、「散歩して」(ええ)、「いっしょについて」(ええ)とあるように、1発話中4箇所の「て」の後に聞き手のあいづちが挿入されている。「て」の後に分布するあいづちは71箇所もあり、249(接続助詞の後のあいづち頻度数)に対する比率(分布率)は28.5%となり、接続助詞の後のあいづちの分布率は「て」の後が一番高い。「て」が置かれる箇所は話し手の聞き手に対するあいづちの要求力が強いところであるといえる。

例19「フロッピーディスクドライブでやってましたけれども」の後に挿入されている「うん」のように、「け(れ)ど(も)」の後に分布するあいづちも46箇所、249に対する比率は18.5%となり、「け(れ)ど(も)」の後も「て」に続いてあいづちの分布率が高い。

例20の「100名ぐらいずつですからあ」「選び出したいのでえ」「100台ありますのでえ」の後に打たれている「はい」「ええ」のように、「から」「ので」の後に分布するあいづちもかなり多い。また、例21「お時間があれば、」(ええ)、例22「こっちからうつと、」(うん)、例23「あったらば、」(うん)のように、「ば」「と」「たらば」等の接続助詞の後に分布するあいづちも少なくない。

あいづちはこのように「て」「け(れ)ど(も)」「から」「ので」「と」「ば」「たら(ば)」等の接続助詞で終わるところに多く分布することが実証される。これらの接続助詞は節に付いて、節と節とを明確に区切る役割を持つ。発話の流れの途中で接続助詞が置かれればそのところには短い切れ目ができるので、そこにあいづちが挿入されやすくなる。接続助詞の後は、話し手が聞き手に聞いているという反応を促す箇所、即ちあいづちが要求される箇所である。聞き手がこうした話し手から送られるてがかり一接続助詞一をもとに適切にあいづちを打てば、会話はスムーズに進行していくことになる。

あいづちが送られるその他の接続助詞「が」「し」「ても」「のに」の例を挙げておく。

図それで、実はあの一(はい inf(女))、お願いというのは(ええ、はいはい inf(女))ですね、えーと、係りの者がどの程度お話したかわからないんですが(あん、はいはい inf(女))、実は今度こうゆう、あの一ですね(はい

- inf(女))、えー介護休暇制度に関する専門家会合とゆうの (はい、はい inf(女)) をやりたいと思ってまして。 [04M・40・f→04A・50・f・打・*]
- ㊦ あー、そうですねー↑、サラダとかあ (うん inf(女))、そういうー野菜料理はあ (うん inf(女)) 結構食べてるかもしれないしい。 (うんー、うん、うん、うん、うん inf(女)) [19B・30・f→19A・40・f・雑・親親]
- ㊦ →ええ、←いちよだから、売っても売らなくっても、(うん inf(女)) とりあえずガイドブックはひとつ★作る。 [06M・?・m→多数・打・*]
- ㊦ だから、ちっちゃい時って父親とか、絶対、なんか、いてほしい存在なのにー、(うん inf(女)) そうゆう時にいなくてー、(うん inf(女)) なんか高校とかになって、突然★いな、いなくてもいい時に帰ってきたから、ものすごい。(笑い) [03K・20・f→03A・30・f・雑・普]

3.3 あいづちの分布その3—名詞句、述語動詞の後—

表1-1によると、名詞句の後に分布するあいづちは182箇所もあり、総頻度数737に対する比率 (あいづち率) は24.7%と高い。他方、述語動詞の後に現れるあいづちは39箇所、あいづち率は対総頻度数比5.3%と低い。以下に用例を挙げ、検討する。

- ㊦ ルックス表示の概要とー、表情とは、ってゆう話、(そうね 他者(女)) コミュニケーションギャップ、第一印象の重要性、心の、心と表情の分離の要因、(うん 他者(女)) 国民性、生活、(うん 他者(女)) 性格背景、あ、生活背景、性格。 [15A・30・f→15B・50・f・会・普]
- ㊦ そしたらー、この前ー、そっちのノースウエストの (うん 他者(女)) ワールドパークス経由で (うん 他者(女)) 来たの。 [17K・30・f→17A・30・f・雑・*]
- ㊦ 次は討論、(うん 他者(男)) ってはじめます、(うん 他者(男)) 司会を誰それにお願いしますなんてゆうのを、★おっしゃる役割でしょう。 [04H・50・f→多数・会・*]

名詞の後に分布するあいづちを見ると、例28「話、」「要因、」「生活、」のように名詞の後に間 (ポーズ) があり、その間 (ポーズ) の直後に「そうね」「うん」と送られている。例29に見られるあいづちは、「ワールドパークス経由で」(うん) とあるように名詞に格助詞がついた名詞句の後に送られている。このようにあいづち

は、話し手が発話途中で名詞の後に間（ポーズ）を置く時、あるいは名詞に格助詞がついた後に送られることが多い。名詞の後の間（ポーズ）や助詞は、発話の切れ目を明確にする。つまり間（ポーズ）や助詞によって区切られる名詞句の付近はあいづちが挿入されやすいところであり、その箇所は話し手が聞き手にあいづちを要求するところでもあるといえる。例30に見られるあいづちは、「討論、」のような名詞の後のポーズのところだけでなく、動詞「はじめます、」のように動詞の後のポーズ付近でも送られている。

ところが、あいづちには以下の例のようなものがある。例31「変更になって（うん）たんで、」、例32「お昼食べ（うん）てるとき」、例33「待ってる（うん）の↑」、例34「変わらない（うんうんうん）のかなあ」のようなあいづちは、今まで見てきた助詞に伴われた名詞の後、間（ポーズ）によって区切られた名詞や動詞などの後のどれにもあてはまらない。話し手があいづちを要求するところで打たれているものではない。これらは談話の流れに沿って自然に打たれたあいづちである。実際自然談話資料にはこのようにてがかりがないところで打たれるあいづちがかなりあるのである。

㊦あ、[名字] 先生ーも（はい inf(女)）、4（よん）教室ーに（うん inf(女)）、変更になって（うん inf(女)）たんで、（はい inf(女)）あの一、334（さんさんよん）で。
[07E・30・f→07A・40・f・打・親親]

㊦このように、えー、例えばフォーマルな、その一、普通にほらお昼食べ（うん 他者(女)）てるときとかの、場合と、どう違うか、とかさ。
[03A・30・f→03K・20・f・雑・普]

㊦あ、向こうで待ってる、（うん 他者(女)）の↑
[10A・40・f→10E・20・f・雑・親]

㊦あの一、普通のこういうねえ、録音機能の付いてるほうではあんまり、もう変わらない（うんうんうん 他者(女)）のかなあとか思ってたけど、やりましたね、★[社名]さん。
[19A・40・f→19B・30・f・雑・親親]

3.4 あいづちの分布その4ーその他（接続詞、指示詞、副詞句の後）ー

表1-1には、接続詞や指示詞、副詞句などの後に分布するあいづちも頻度は少ないがある。例を挙げると、次のようなものである。

㊦→そんでー、←（うん inf(女)）そんでー、あしたー、★あしたー、来ない

- から。 [13D・20・f→13A・20・f・雑・普]
- ㉔でもお(うん inf(女))、アメリカ人みたいなあ、極端な肥満(うん inf(女))、
 の人は見ないんですよー↑ [19B・30・f→19A・40・f・雑・親親]
- ㉕それで、メンバーとしてですね、(はいはい inf(女)) まだ、全部、あの一、
 (はい inf(女)) 話は、(はい inf(女)) してないんです、いちよ、お医者さん
 としてですね★、あの一。 [04M・40・f→04A・50・f・打・?]
 →はあはあ。←[名字]先生ね。 [04A・50・f→04M・40・f・打・?]
- ㉖それで、あの、法律に一詳しい方でも、その、(うんうん inf(女)) 例えば、
 権利規定にするとどうようなことになった場合に、(うんうん inf(女)) あの、
 ほんとにその一こう厚生保険みたいなものちゃんとかけるのかとか、(うんう
 ん inf(女)) ちょっと育児よりはむずかしいんじゃないかってゆう★ご意見
 もあってですね。 [04M・40・f→04A・50・f・打・?]
- ㉗で、したがって、えー、できればあの一、早く(うんうんうんうん inf(女))
 一回目を開いて、でー、まあ遅くても来年の6月ぐらいまでには★なんとか、
 まあ、まとめたい。 [04M・40・f→04A・50・f・打・?]

例35、36のあいづちは接続詞「そんでー」、「でもお」の後に打たれているもの、
 例37、38のあいづちは「あの一」、「その、」等の指示詞の後に打たれているもので
 ある。日本語においては、1発話を切れ目なく最後まで流暢に話すことが必ずしも
 上手な話し方だとはとらえられていない。むしろ、相手の反応を見ながらためらい
 がちに少しずつ会話を進めていくほうが好まれる。「あの一」「その」は発話の流れ、
 語句の間に挿入されてためらいがちな話の場をつくる役割を果たすものである。37
 では、話し手がまず「それで、メンバーとしてですね、」というところで「はいは
 い」とあいづちが入り、「まだ、全部、あの一、」というところでまた「はい」とあ
 いづちが入る。例38では、「それで、あの、法律に一詳しい方でも、その、」のこ
 ろで「うんうん」とあいづちが入る。こうして語句と語句の間に挿入される「あ
 の一」「その」はためらいがちな会話の場作りに使われるとともに聞き手に働きかけ、
 聞き手の反応を喚起する役割を持つ。「あの一」「その」の後にあいづちが送られる
 のもこうした理由による。「それ(ん)で」「でも(お)」も同じような役割をするも
 のである。従って、「あの一」「その」「それで」「でも」の後にあいづちを打つこと
 によって発話が展開していくのである。この場合のあいづちは会話促進機能の側面
 が強い。例39「早く(うんうんうん)一回目を開いて」のように、あいづちは副詞
 句の後にも送られる。

4. おわりに

発話上のどの位置にあいづちが出現・分布するのか、実際の自然な談話資料にもとづいて調査した結果、次のようなことが明らかになった。

まずあいづちが最も多く出現する位置は接続助詞の後である。次に多いのが名詞の後の間（ポーズ）や名詞句の後である。三番目が終助詞・間投助詞の後である。これらで全体の79%を占める。残りは接続詞や指示詞、副詞句の後である。接続助詞、終助詞・間投助詞、名詞の後の間（ポーズ）あるいは格助詞によって区切られる箇所は、話し手が聞き手の関与を促す箇所、言い換えれば聞き手にあいづちを要求する箇所である。「それで」「あのー」等の接続詞や指示詞も聞き手の反応を喚起する。そこに聞き手のあいづちが送られる。つまり、あいづちはこのように話し手が聞き手に直接的に働きかける箇所に分布することがわかった。

参考文献

- 黒崎良昭1987「談話進行上の相づちの運用と機能－兵庫県滝野方言について－」『国語学』150
- 現代日本語研究会編1994『職場における女性の話しことば－自然談話録音資料に基づいて－』財団法人東京女性財団1993年度助成研究報告書
- 1997『女性の話しことば・職場編』ひつじ書房
- 小宮千鶴子1986「相づち使用の実態－出現傾向とその周辺－」『語学教育研究論叢』第3号 大東文化大学語学教育研究所
- 佐治圭三1991『日本語の文法の研究』ひつじ書房
- ザトラウスキー・ポリー1993『日本語の談話の構造分析－勧誘のストラテジーの考察－』くろしお出版
- 中島悦子2000「あいづちに使用される「はい」と「うん」－あらたまり度・待遇度から見た出現実態－」『ことば』21号 現代日本語研究会
- 日向茂男1980「談話における「はい」と「ええ」の機能」国立国語研究所報告65『研究報告集2』国立国語研究所
- 堀口純子1991「あいづち研究の現段階と課題」『日本語学』第10巻10号 明治書院
- 1997『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- メイナード・K・泉子1993『会話分析』くろしお出版
- 水谷信子1983「あいづちと応答」『話しことばの表現』筑摩書房
- 1984「日本語教育と話しことばの実態－あいづちの分析－」『金田一春彦博士古希記念論文集』第2巻言語学編 三省堂
- 1985『日英比較 話しことばの文法』くろしお出版
- 1988a「話しことばの比較対照」『話しことばのコミュニケーション』凡人社
- 1988b「あいづち論」『日本語学』第7巻第13号 明治書院